

UN WOMEN



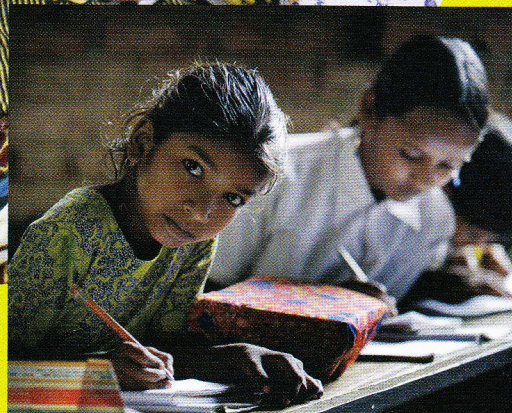
United Nations Entity for Gender Equality
and the Empowerment of Women

ジェンダー平等と 女性のエンパワーメントのための国連機関

UN Women (旧UNIFEM) 日本事務所は、世界中の女性の地位向上のために、2009年10月にアジアで初めて、「全国初の男女共同参画宣言都市」である堺市に開設されました。女性が直面する問題を解決するためには、日本政府とのパートナーシップを構築し、その関係をより強化することが必要です。当事務所は、日本政府のご支援のもと、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントを広げることに取り組んでいます。

日本は、UN Women設立以前のUNIFEMの時代から、積極的に世界中の女性の支援を行ってきました。その貢献が評価され、日本は2010年7月2日のUN Womenの設立にあたり、UN Womenの初代執行理事国に選ばれました。

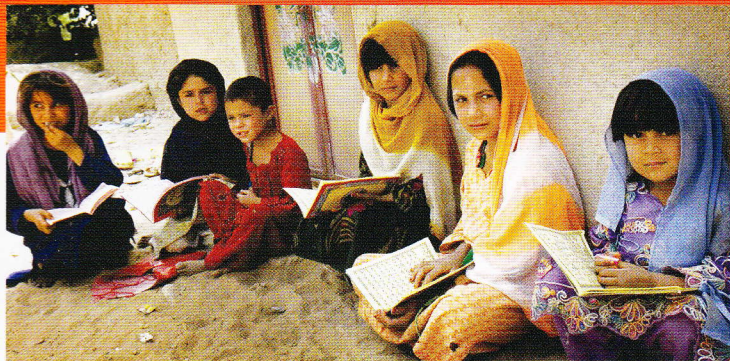
UN Women日本事務所は、日本が世界の女性を支援することを橋渡しするだけでなく、日本国内の女性への支援にも取り組んでいます。その活動の一つとして、日本企業に女性のエンパワーメントへの賛同を呼びかけています。ビジネスや民間団体の分野において、ジェンダー平等が実施されることは、女性の地位が向上するだけでなく、企業や団体自体、ひいては社会全体の活性化を図ります。当事務所は、より多くの企業や団体、そして自治体に、「女性のエンパワーメントのための指針」に賛同・署名いただくことで、女性の能力が平等に評価され、十分に活かされる、豊かな社会づくりの貢献に努めています。



女性の3人に1人が一生のうち
に虐待や暴力を経験しています。
そのほとんどが夫やパートナー、
知り合いによるものです。



日本の皆様の支えがあってこそ、UN Women日本事務所は性別を問わずあらゆる人が個性を活かし、いっそう輝ける環境をつくることのできるのです。ぜひ皆様のご支援をよろしくお願いいたします！



日本政府、アフガニスタンの女性を暴力から守るために闘う

UN Women 日本事務所の働きかけに応じ、2011年に日本政府からアフガニスタンにおける「女性に対する暴力の拡大防止」のために、450万米ドル（およそ4億5千万円）の資金援助をいただきました。これにより、女性に対する暴力撤廃のためのアフガニスタン政府委員会への支援事業を通じて暴力の被害者へのシェルター提供や女性に対する暴力についての周知・啓発活動を行っています。

Q&A

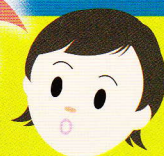
UN Women 日本事務所の仕事はどんなことでしょうか？

UN Women 日本事務所には二つの大きな目的があります。第一は、UN Women と日本政府や民間部門とのパートナーシップを構築し、日本からの支援を UN Women 本部を通じて世界中の女性のための活動につなげることです。第二は、日本のメディアや講演会などを通じて UN Women の認知度を上げることです。UN Women の活動理念に賛同する方が多いほど、日本政府・民間部門との信頼関係をより強めることができます。

なぜ UN Women にとって支援が必要なのでしょう？

UN Women は、世界各地の女性の生活向上のためにプロジェクトを実行し、ジェンダー平等関連の情報センターとしての役割を担うなど、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのために様々な活動をしています。そのために広く各方面からの支援を必要としているのです。

年間およそ80万人が人身取引され、そのうちの80%が女性と女児で、79%は性的搾取を目的としたものです。



なぜジェンダー平等は大切なのでしょうか？

世界中で、一日に1ドル以下で生活することを強いられている人のうち、70%が女性です。また多くの国々では、女性が土地や財産を所有することを認めていません。貧困や差別などの問題を解決するために、ジェンダー平等を達成することが必要なのです。女性の権利を軽んじることは、世界の人口の半分である女性の持つ力を、社会的そして経済的に十分に活用できずにいるということなのです。女性が暴力から解放され、教育を受け、本来の力が発揮されることにより、企業も収益をあげ、国も成長・安定し、社会は繁栄するでしょう。それは女性だけでなく、男性、そして子どもたちすべてが幸せになることを意味します。

男性にとってのジェンダー平等とはなんなのでしょう？

ほとんどの男性は仕事や生活の上で女性とかわりを持って生きています。女性がその能力を十分に活かせれば社会も豊かになります。ジェンダー平等な社会とは性別にかかわらず、あらゆる人が能力を発揮できる世の中ということです。男性も性別による役割分担に縛られず、家族や地域コミュニティと深くかかわることによって、バランスのとれた、より充実した人生を送ることができます。男性も女性も共に協力して、社会環境を整える必要があるのです。ジェンダー平等な社会の実現のために、UN Women は男性からの協力も必要としています。

日本で通勤に電車を利用している女性の64%が、車内で痴漢の被害にあったことがあると報告しています。

世界中で読み書きができない大人は7億7,400万人いるとされており、そのうちの64%が女性です。識字率は男性が87%に対し、女性は77%です。



UN Women 親善大使
アカデミー賞女優
ニコール・キッドマン



私が UN Women と一緒に活動するのは、コンボで出会った女性たちの声や、面識はないけれど、想像もできないような暴力に苦しんでいる女性たちの声を広く代弁するためです。



UN Women 事務局長
ミチエル・バチエレ

UN Women の初代事務局長はミチエル・バチエレです。彼女は医師であり軍事専門家でもあります。UN Women 事務局長就任前はチリ史上初の女性大統領として活躍しました。3人の子どものシングルマザーでもあり、アウグスト・ピノチエト政権下で投獄、拷問、亡命を経験した彼女は、困難な状況下にいる世界中の多くの女性たちの理解者として女性たちの人権を守り尊重していきます。